

Back Number

本論文は

世界経済評論 2020年11/12月号

(2020年11月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

コロナ危機で台頭したホームデリバリーサービス



小田部 正明

前回のコラムでは、手を付けられないほど悪化したコロナ危機下でのアメリカの高い失業率とそれに潜む色々な社会問題について記してみた。今年の8月8日付で、アメリカでコロナ感染者は500万人を超え、16万人強の人々が命を落としている。同日、日本では3万3千人の感染者と1000人強の死者が報告されている。人口当たりで比較すると、アメリカでの感染率は驚くほど高く、日本の50倍近くに達する。日本でも一般市民はコロナ感染を恐れ外出を自粛しているのは理解できるが、アメリカでの感染率の異常な高さを考えると、日本人よりも更に感染を恐れ、必要以外の外出を自粛しているアメリカ人が多いことは容易に想像できるであろう。そうは言っても、毎日の消費生活を止めることはできない。

このようなコロナ危機下で、一般生活の様々な所でホームデリバリーサービス(HDS)が急激に台頭してきている。勿論、以前から限られたHDSが存在していたのは誰もが知っている。例えば、ピザデリバリー、家具デリバリー、Amazonのプライム・デリバリーがそれである。バイナリー思考のアメリカ(本誌2017年1/2月号の拙著コラム参照)では、様々なHDSが展開しており、このような変化が他の国のどこよりも早く起こっているようだ。今回は私個人の経験をもとに、このようHDSがコロナ危機後に定着するかどうか憶測してみたい。

この5月から6月の2か月間、仕事関係でハワイの首都ホノルルに住むことになった。生憎、コロナの問題でハワイでは2週間の強制隔離が実施されていた。私の在住するフィラデルフィアからホノルルに着くや否や、私の移転先の住所、連絡先の電話番号等を記入する書式を空港の検察官から渡され、その場で記入し提出しなければならなかった。空港を出たらどこにも寄ることができ

ず、そのままタクシーで移転先に到着した。いったん部屋に入ると、2週間全く部屋から外出できない。時々、空港検察官が電話をしてきて、私が部屋にいるかどうかを確認する。外出(違法)したのがばれると5,000ドルの罰金か1年の懲役の犯罪になる。勿論、スーパーマーケットに食料品を買いに行くことも、レストランに行くこともできない。つまり、100%ホームデリバリーサービスに頼らざるを得ない。知人が私に会いに来ることもできない。私にとっては人生初めての「強制隔離」を経験した訳だ。

勿論、ハワイに出発する前から、ハワイ州政府の強制隔離は知っていたので心の準備をするばかりでなく、実際の毎日の生活をどうするか等の方法は学んでいた。生活する(生きていく)為に最初に大切なのは、毎日の食料品を仕入れることである。フィラデルフィアを出発する前に、出張先の近くにあるSafewayという大きなスーパーマーケットにオンラインで最初の数日分の必需品(牛乳、パン、肉、野菜等)をオーダーし、ホノルル到着2時間後に配達してもらおうようにしておいた。ホノルル到着後の最初のHDSである。慣れてきて、一週間分の買い溜めをしたい時はCostcoなどの会員制大店舗のHDSを使うこともできる。

外食を自宅でしたい場合は、レストランによって自前のHDSをしているところもあるが、数は少ない。レストランからの食事を注文したいときは、Uber Eats、DoorDash、そしてGrubHubが主なHDSを提供するドットコム会社である。Uber Eatsがその先駆者だが、DoorDashが市場占有率では1番であるようだ。多くのレストランがメンバーシップ制でこれらのHDS社と提携し

ている。一般の商品に関しては、Amazonのプライムは勿論であるが、WalmartとかホームセンターのHome Depot等も自前のHDSを持っており、オンラインで注文すると数日中には商品が配達される。

ビジネスの観点からすると、これらのHDSにかかる費用がいくら位で、誰が負担するのだろうかと考えざるを得ない。例えば、Amazonはプライム年会費（現在119ドル）を払えば、「ただ」でHDSが使える。つまり、ある意味では顧客がAmazonのHDSに前払いしている訳だ。WalmartとかHome Depotは、オンラインで注文すれば、HDSは基本的には昔からあるHDSと同じであり、配送距離、商品の重さによって配達料が加算される。つまり、顧客が商品の値段に加えて配達料を払う訳である。私の経験からすれば、必ずしも安い配達料とは言えない。

Costcoなどの会員制大店舗も含めてスーパーマーケットなどの場合は多少面白い値段付けをしている。店舗内の値段よりもオンラインの値段が多少高いことだ。例えばCostcoでは75ドル以上の買い物をオンラインですれば、配達料はほんの3ドルである。オンラインの値段が店舗内の値段よりも高いことは未だ多くの顧客には知られていない。そういう顧客にとって3ドルの配達料は非常に安く見える。しかし、私の見積もりによると、実際にはオンラインの値段は平均して20%くらい高いようだ。

私が一番関心を持ったのは、レストランからの食事のHDSをするUber Eats, DoorDash, GrubHub等の値段付けである。前述のスーパーマーケットと同じように、これらのHDSを使うと、まず最初にレストランで食べる時の食事の値段よりもオンラインの値段の方が30%位高く付けられているようだ。その上に配達料として配達の距離に応じて何ドルか追加料金（数千円5ドル位）がかかる。そしてその上に、配達人へのチップ（サービ

ス料）が15-20%加算される。私が実際に値段を比較してみると、HDSを使うとレストランで食べた時の値段と比べて少なくとも60%程高くなってしまふ。

ハワイでの2週間の強制隔離を経験して、最初は全てオンラインで注文し、食事はDoorDashを使って自分が指定した時間に、Amazonはプライムを使えば1~3日以内で、スーパーマーケットは1日後から指定時間に、またWalmartやTargetからの一般商品も数日中にはHDSで入手できることを学んだ。つまり、自分の家（滞在先）にいてオンラインでHDSを使いこなし、いかなるものも入手できることのうまみを経験した。将来、果たして、コロナ危機後に私たちの生活はほとんど移動しなくてモノが調達できる便利な（怠慢な？）生活ができるようになるのだろうかと考えてみた。

二つのことが言えそうだ。最初に、これほど怠慢な生活を私たちが本当にしたいのだろうか。2週間の隔離を経験して、私は否定的に思う。確かに便利だが、生活に張りがなくなる。次に、経済学の観点からみて、この便宜性に20~60%のプレミアムを払いたいかどうか、そして払えるかどうか、私は懐疑的である。Amazonプライムの年間費は、Amazonでは規模の経済性で充分に安価に抑えられているが、その他のカスタマイズされたドア・ツー・ドアのサービス（つまりHDS）はコストが嵩み、ふんだんに使うには大きな生活費の負担となるであろう。私の予測では、一旦コロナ危機が解決すると、超過費用の高いHDSは徐々に淘汰されていくだろう。しかし時間に制約がある場合は確かに便利なので、HDSはニッチなサービスとして存続はするだろうが、幅広く普及するとは思えない。

こたべ まさあき テンプル大学フォックス経営大学院教授